

KANAZAWA CITY IKIMONO GUIDE BOOK

# 金沢市いきものガイドブック

～「五感」で自然を楽しもう～



金沢市環境政策課

金沢市内には、森・台地・平野・川・潟・海などの豊かな自然があり、そこに適したいきものがたくさん暮らしています。身近ないきものを見て、聞いて、触れて、においを嗅いで、味わって、「五感」を使って楽しんでみませんか。

## 目次

### CONTENTS

#### おすすめスポット …… 1



#### 見る〈視覚〉

- 北陸地方を代表する植物 …… 2
- 野鳥 …… 4
- トンボ …… 6
- チョウ …… 8
- ホタルの幻想的な光を  
楽しもう …… 10
- ホタル生息調査 …… 12



#### 聞く〈聴覚〉

- 野鳥の鳴き声を聞いてみよう …… 14
- セミの鳴き声や、ぬけがらの  
違いを比べてみよう …… 15
- 市民参加型  
セミのぬけがら調査 …… 16



#### 触れる〈触覚〉

- 植物 …… 18
- 両生類 …… 19
- 甲殻類 …… 20
- 爬虫類 …… 21



#### 嗅ぐ〈嗅覚〉

- 植物のにおいを楽しもう …… 22



#### 食べる〈味覚〉

- 食べて実感する金沢の自然 …… 24

- 
- 野生鳥獣との関わり方 …… 26

#### 金沢市で確認されている 特定外来生物

- 植物 …… 28
- 両生類・哺乳類 …… 30
- 魚類(淡水魚) …… 31

#### 環境学習の実施

- ヤマメの飼育・放流事業 …… 32
  - ハツタミミズ学習会 …… 33
-

# おすすめスポット

春

## 平栗いこいの森

金沢市自然環境保全区域に指定されている自然豊かな場所です。里山の雪が消える4月上旬頃、カタクリの花が一斉に咲き、1年で最も美しい季節を迎えます。



所在地 金沢市平栗

駐車場 有(無料)

アクセス JR金沢駅から車で約40分

夏

## 本多の森

市中心部ではめずらしく、7月～8月にかけて情緒あふれるヒグラシの鳴き声をきくことができます。(残したい日本の音風景100選に選定)



所在地 金沢市出羽町、石引、本多町

駐車場 無(付近に有料駐車場有)

アクセス JR金沢駅から車で約10分

秋

## こなん水辺公園

田ぼや小川など、河北潟周辺の風景を再現した公園です。管理学習棟や芝生広場もあり、子どもも大人も気軽に自然に親しむことができます。



所在地 金沢市東蚊爪町マ32-1

駐車場 有(無料)

アクセス JR金沢駅から車で約15分

冬

## 河北潟周辺

渡り鳥の飛来地となっており、コハクチヨウやガン・カモ類などを観察することができます。冬鳥を驚かさないように、離れた所から観察しましょう。



所在地 河北潟周辺

駐車場 無

アクセス JR金沢駅から車で約25分



## 北陸地方を代表する植物

多雪条件に適應したり、守られたりして、日本海側を中心に分布している植物を日本海要素植物といいます。金沢市内に生育している代表的なものをご紹介します。



キンキマメザクラ(バラ科)

◎落葉小高木で、木も花も小ぶりであることが「豆桜」の名前の由来です。雪国に多い小ぶりな低い木は、雪の重みに耐え、雪におおわれることで寒さからも守られます。

1

トキワイカリソウ(メギ科)

◎4個の花弁の突起がそれぞれ四方につき出している様子が、錨(イカリ)のように見えます。冬になっても葉はつきたままで、常緑です。



1





### スマレサイシン(スマレ科)

◎スマレの中では、花や葉が大きく、主に、半日陰の湿り気がある山地に生育しています。



### カタクリ(ユリ科)

◎春のほんのひとときに、花を咲かせます。種子から花を咲かせるまで7～8年も長い年月を必要とします。昔は、地下深くの鱗茎の部分を片栗粉の原料として使っていました。

### ミズバショウ(サトイモ科)

◎4月頃に花を咲かせます。白い部分は花ではなく、仏炎苞(ぶつえんぼう)という葉が変形したものです。仏炎苞の真ん中にある円柱状の部分に小さな花が集まって咲きます。

東原町のミズバショウ自生地には、約900株が自生しており、金沢市指定天然記念物となっています。





## 野鳥

自然豊かな金沢では、四季を通して多くの野鳥を観察することができます。  
 留鳥（一年を通して観られる鳥）、夏鳥（春に日本にやってきて子育てをする鳥）、冬鳥（秋に日本に渡ってきて冬を過ごす鳥）などがいます。

### ● 清流に住む美しい野鳥（留鳥）

**カワセミ** 全長17cm

◎頭が大きくてクチバシが長いです。お腹はオレンジ色で背中のコバルトブルーが美しい野鳥。水辺に生息し、魚を狙い急降下して捕らえます。低空飛翔をすることもあります。



8

### ● 初夏にやってくる野鳥（夏鳥）



8

**オオルリ** 全長16cm

◎夏鳥として飛来し、特に溪流沿いの林を好みます。オスは高い木の目立つところで「ビールーリーーージジッ」などと、ゆるやかに次第に下がる声でさえずります。オスは、頭から背中が青色、白い腹に黒い胸。メスは褐色。



1

**アカショウビン** 全長27cm

◎体の大部分は赤色。夏鳥として溪流のある暗い林に飛来しますが、数は多くありません。サワガニ、カエル、トカゲなどの小動物や虫をとります。  
 「ヒヒヨロロロロ・・・」と次第に下がり消え入るような特徴のある声でさえずります。





## ● 秋にやってくる野鳥(冬鳥)



**ツグミ** 全長24cm

◎冬鳥として飛来し、秋は山地で木の実を食べ、冬は芝生や畑、河原などの開けた場所でミミズなどのエサをとります。「クィクィ」または「キュッキュー」と二声で鳴くことが多いです。



**ジョウビタキ** 全長15cm

◎冬鳥として飛来し、やや開けた環境を好み、1羽でいます。澄んだ声で「ヒツ、ヒツ」と鳴き、時々おじぎをして尾を震わせめます。オスは頭が灰白色、喉が黒、腹がオレンジ色で翼に白斑があります。メスは褐色ですが、翼に白斑があります。

## ● 冬に賑わう野鳥



**マガモ** 全長59cm

◎冬鳥として湖沼、河川、海岸に飛来します。「ゲッグゲツ」と鳴きます。オスの頭部は緑色光沢があり首に白い輪、メスは褐色。オスメスとも足は橙色、尾は白。



**カワアイサ** 全長 オス70cm、メス60cm

◎冬鳥として湖沼や河川などに飛来し、群れをつかって住んでいます。水面に首を入れて魚などのエサをとります。オスの頭部は緑黒色、背は黒く体の下面は白。メスの頭部は栗色で冠羽があります。



## トンボ

卵たまご→幼虫ようちゆう→成虫せいちゆうという不完全へんたいたい変態へんたいの生活を送ります。幼虫はヤゴと呼ばれ、ほとんどの種が水の中で生活します。その後、羽化して成虫になります。幼虫も成虫も肉食性で、他の昆虫などを食べます。

### ●日本で1番大きいトンボ

**オニヤンマ** 体長9~11cm

◎緑色の目ふくがん(複眼)を持ち、黄色と黒色のしま模様しまようがある日本最大のトンボです。日陰の多い涼しい場所を好みます。体が大きいため、幼虫から成虫になるまで2~3年もかかります。

オニヤンマを見かけたら、飛んで行ってしまっても、しばらくすると同じ場所に戻って来ることが多いです。その時が観察するチャンスです。



1

### ●日本で1番小さいトンボ

**ハッチョウトンボ** 体長1.7cm

◎1円玉ぐらいの大きさです。主に湿地で生活していますが、造成などによる埋め立てや環境汚染によって数が減少しています。



13

オス



13

メス





## ● ちょっとめずらしいトンボ



キイトンボ

1

◎水草の多い場所で生活しています。細長い体形で、ゆるやかに飛びます。



チョウトンボ

1

◎チョウのようにひらひらと飛ぶことから名前が付けられました。

## ● 中型のトンボ



ショウジョウトンボ

◎池や沼などの水辺付近に生息しています。オスは脚まで赤色をしていますが、メスは黄土色をしています。草にとまっていることが多いです。

## シオカラトンボ

◎市街地などでもよく見られます。成長したオスは、白い粉で覆われ、これを塩に見立てたことが名前の由来です。この粉は、紫外線を反射させる効果があるため、日差しが強い夏でも元気に飛び回れます。

翅の根元が  
黒色のものは  
オオシオカラトンボ



1



# 見る し かく 〈視覚〉

## チョウ

卵たまご→幼虫ようちゆう→蛹さなぎ→成虫へんたいという完全変態ぜんぜんへんたいの生活を送ります。チョウの幼虫は、種ごとに食べるエサが決まっています。また、成虫になると、口吻こうふんというストロークのような口で花の蜜みつを吸すいますが、口吻の長さによって吸える花が決まってきます。

このように、うまく住み分けをして生活していることが分かります。

### モンシロチョウ

◎春から秋の長い期間、観察できます。人間には見えない紫外線しがいせんが見えるといわれています。チョウ同士どうし、紫外線を反射した翅はねの色の違いで、オスメスの判別はんべつをしています。幼虫はキャベツなどの葉を食べます。



### ウラギンシジミ

◎翅はねの裏側うらがわが銀色であることが名前の由来です。塩分が好きで、汗あせをかいた人の腕うでにとまることがあります。幼虫はクズの花などを食べます。





## アサギマダラ

◎あまり羽ばたかずに、ふわふわと飛翔します。アサギマダラは、幼虫の時期に毒の成分が含まれる植物を食べることで体内に毒を蓄積し、外敵から身を守っています。旅をするチョウとして知られています。幼虫はつる性のイケマなどの葉を食べます。



## ギフチョウ

国 絶滅危惧Ⅱ類  
県 準絶滅危惧



◎ギフチョウはアゲハチョウの仲間で、日が差し込む明るい雑木林に生息しています。春の短い期間にだけ姿を現します。金沢では、平栗地区のように手入れされた里山で見ることができ、全国的に生息に適した環境が減少し、特に太平洋側では生息数が著しく減少しています。幼虫はヒメカンアオイなどの葉を食べます。

## オオムラサキ

国 準絶滅危惧  
県 準絶滅危惧

◎チョウの中で最も進化したタテハチョウの仲間です。飛翔能力が高く、力強く羽ばたきます。日本の国蝶に選ばれています。幼虫はエノキなどの葉を食べます。





## ホタルの幻想的な光を楽しもう

ホタルは、世界で約2,000種類います。日本には、そのうち約50種類が生息しています。日本で一般に「ホタル」というのは、「ゲンジボタル」か「ヘイケボタル」を指します。

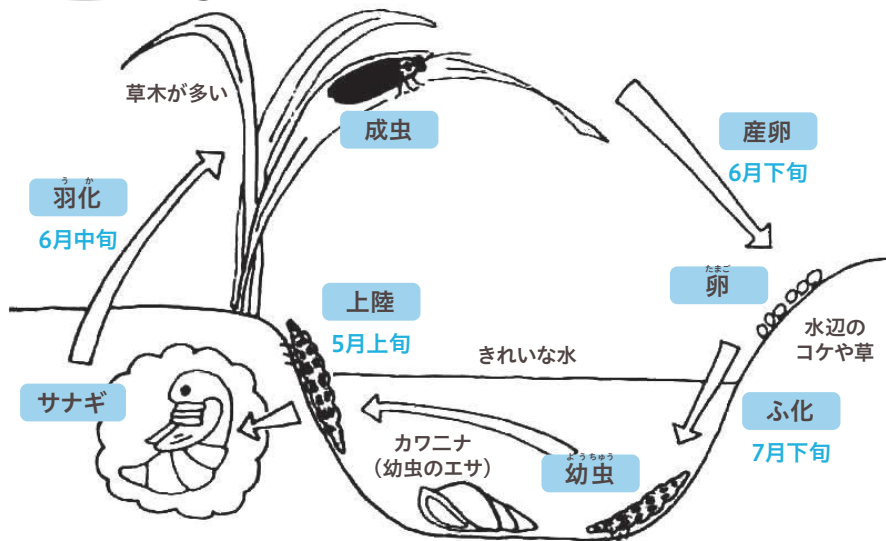
実はこの2種類は、成虫だけでなく、幼虫、さなぎ、卵も光る、めずらしいホタルなのです。

石川県内では、「ゲンジボタル」、「ヘイケボタル」以外にも、「ヒメボタル」、「クロマドホタル」、「オバボタル」などが見られます。

### ● ゲンジボタルの生態

#### ゲンジボタルの一生

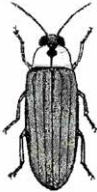

ふつう  
一年で一生涯を  
終わります







## ● ホタルの見分け方

| 名称       | ゲンジボタル  | ヘイケボタル  |
|----------|---|---|
| 写真       |  |  |
| 体の大きさ    | 約10mm～20mm  | 約8mm～10mm   |
| 背中(胸)の模様 | 黒の十字型模様   | 黒の縦すじ模様   |
| 発生時期     | 6月上旬～6月下旬   | 6月中旬～7月下旬   |
| 生息場所     | 水のきれいな小川や用水   | 水田や用水   |
| 発光のしかた   | ゆっくり一斉に点滅   | 早く別々に点滅   |
| 幼虫のエサ    | カワニナ  | モノアラガイ、タニシ  |

## ホタル観賞のマナー

### ホタルを 大切にしましょう

ホタルは羽化して1～2週間しか生きることができません。この間に産卵するので、捕まえて持ち帰らないようお願いします。

### ホタルに 光をあてないで

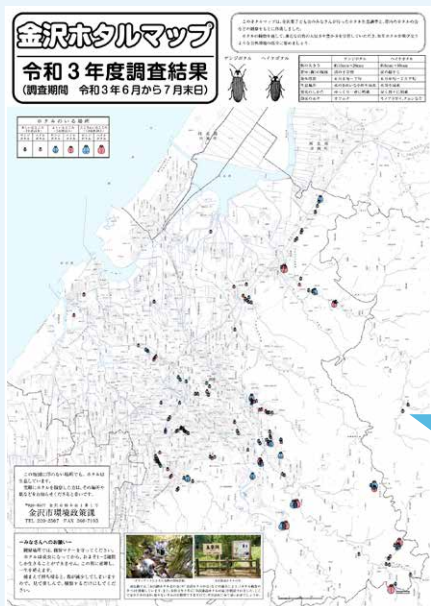
ホタルは光でコミュニケーションをとっています。懐中電灯やカメラのフラッシュなどの光を照らさないようお願いします。

### ごみを 捨てないで

ホタルの生息地には、様々ないきものが生息しています。自然環境を守るためのご協力をお願いします。

# ホタル 生息調査

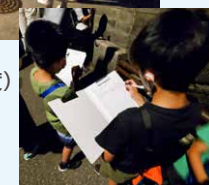
金沢市の「ホタル生息調査」には、子ども会連合会の協力のもと、毎年5千人以上の市民が参加し、市内200ヶ所以上でホタルのいる場所が確認されています。金沢市が作成しているホタルマップでは、ホタルのいる場所を「少しいるところ」(10～49匹)、「よくいるところ」(50～99匹)、「たくさんいるところ」(100匹以上)の3つに区分し、毎年ホタルがどの場所にどれくらい生息しているか一目でわかるようになっています。



菊川町公民館による  
ホタル調査の様子(令和4年度)



過去のホタル  
マップはこちら  
から見る  
ことができます。



## ミニ知識

雨上がり、月明りのない曇りの日、蒸し暑い日がホタルが活発に動き回る日です。

## おすすめホタル観賞スポット

### 白鳥路(金沢城外濠公園)



- 種類 主にゲンジボタル
- 見頃 6月上旬～中旬
- 住所 金沢市丸の内6-1

### 金沢湯涌ホタルの里(玉泉湖)

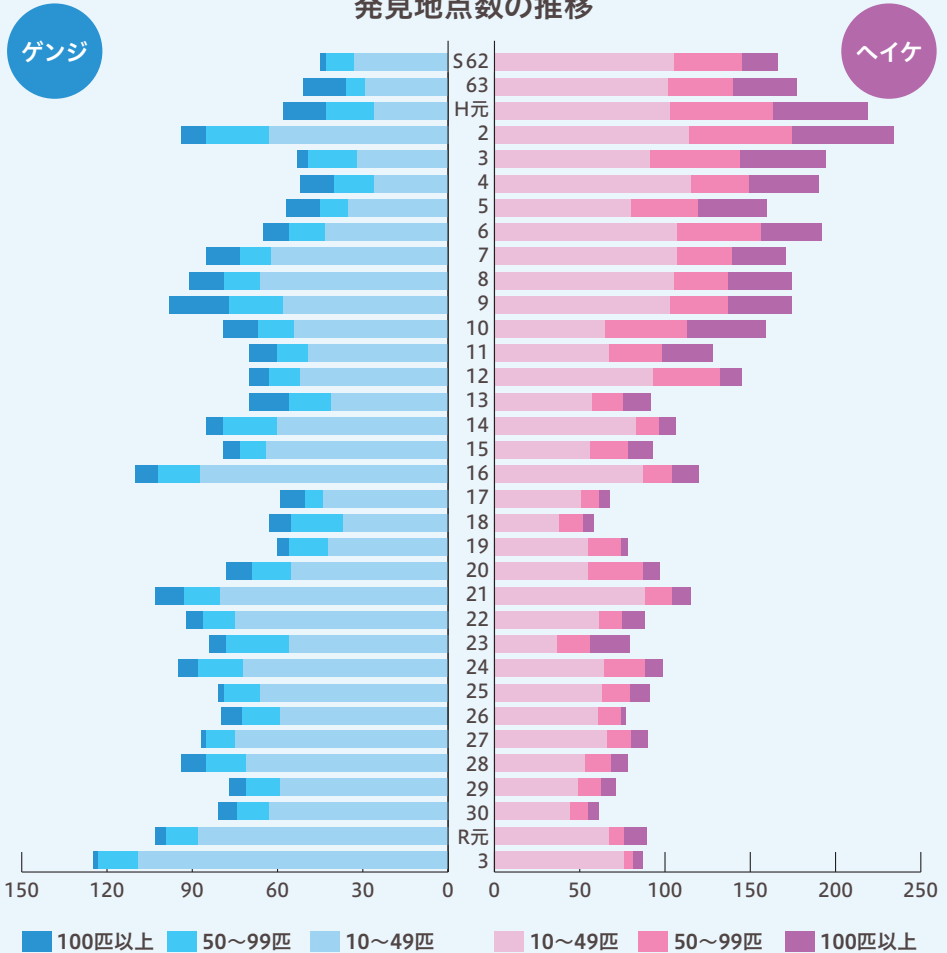


- 種類 主にヘイケボタル
- 見頃 7月上旬頃
- 住所 金沢市湯涌町イ167

## 「ホタル生息調査」が語りかけるもの

ホタルを発見した場所を見てみると、ゲンジボタルはほぼ横ばいで推移しているのに対し、ヘイケボタルは平成2年度をピークに減少しています。また、現在では、ゲンジボタルよりも見られる場所が少なくなっています。ゲンジボタルは小川や用水など水が流れている場所に生息するのに対し、ヘイケボタルは水田や池などの水が溜まっている場所に生息しています。そのため、宅地化が進み水田の数が減少したことがヘイケボタルが減った要因の一つに挙げられます。

### 発見地点数の推移



ホタル生息調査は昭和62年度(1987年度)から30年以上実施しています。  
令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止しました。



# 聞く 〈聴覚〉

## 野鳥の鳴き声を聞いてみよう

野鳥の鳴き声は「さえずり」と「地鳴き」の2種類があります。

「さえずり」・・・オスがなわばりやメスにプロポーズするために鳴く声

「地鳴き」・・・なかまに話しかけている普通の鳴き声

### ウグイス(留鳥) 全長14~15.5cm

◎ササの茂った場所で子育てします。体は地味ですが、春を告げる声はよく知られています。

さえずり ホーホケキョ

地鳴き チャツ、チャツ



8

### シジュウカラ(留鳥) 全長14.5cm



8

◎住宅街から山地にかけ、1年を通して身近に生息しています。胸からお腹に黒い縦のラインがあるのが特徴です。会話をする能力をもっています。

さえずり ツーピーツーピー、ツーピッピ、ジャージャーなど  
約20種類のパターンがある

地鳴き ジジジッ

### モズ(留鳥) 全長20cm



8

◎小さな猛禽類とも言われ、とらえた昆虫やカエルなどを枝に刺す習性は「はやにえ」といわれます。他の鳥の鳴きまねもします。枝などにとまった時に尾をゆっくりと回します。

さえずり キーキーキー

地鳴き ギジギジギジ





## セミの鳴き声や、ぬげがらの違いを比べてみよう

種類によって異なりますが、セミは約2年～7年の間、幼虫の状態ようちゆう じゆうたいで土の中で過ごし、木の根から養分をとって成長します。その後、土の中から出てきて羽化し、成虫となります。成虫の命は約1か月弱です。

| 種名   | アブラゼミ   | ミンミンゼミ  | ニイニイゼミ  | ヒグラシ   |
|------|---|---|---|--|
| 成虫   |    |    |    |    |
| 発生時期 | 7月中旬～<br>9月中旬   | 7月下旬～<br>9月下旬   | 6月下旬～<br>9月中旬   | 7月上旬～<br>9月上旬  |
| 鳴き声  |   |   |   |    |
|      | ジージリジリ...   | ミンミンミン<br>ミンミー  | チイー   | カナカナカナ   |
| ぬげがら |  |  |  |  |
|      | 触覚は太く、<br>毛が多い  | 触覚は細く<br>毛が少ない  | 体は丸く、<br>泥が付く   | 体は茶色で<br>つやがある   |

市民  
参加型

# セミの ぬけがら 調査

セミは種類によって、生息に適している気温や湿度が異なり、ぬけがらの分布を調査することで、金沢市の自然環境の変化を把握できます。本調査は、平成7年(1995年)に第1回のセミのぬけがら調査を行い、その後、平成17年(2005年)、平成22年(2010年)、平成27年(2015年)、令和3年(2021年)に調査をしています。

アブラゼミ



ミンミンゼミ



エゾゼミ



スジアカクマゼミ



チッチゼミ



ニイニゼミ



ヒグラシ



ツクツクボウシ



クマゼミ

## 調査方法

- セミのぬけがらを見つけた場所
- セミのぬけがらの種類と、オス・メスのそれぞれの数

写真提供 / ㊦

## 多かったセミの種類は？

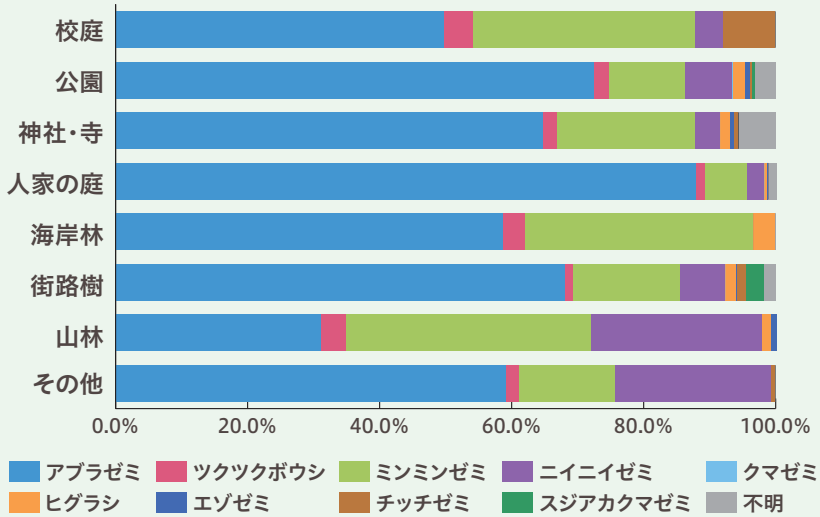
| 種類<br>年度 | アブラゼミ  |       | ツクツクボウシ |      | ミンミンゼミ |       | ニイニゼミ |       | ヒグラシ |      | 計<br>個数 |
|----------|--------|-------|---------|------|--------|-------|-------|-------|------|------|---------|
|          | 個数     | 構成比   | 個数      | 構成比  | 個数     | 構成比   | 個数    | 構成比   | 個数   | 構成比  |         |
| R3       | 10,383 | 73.5% | 328     | 2.3% | 2,216  | 15.7% | 961   | 6.8%  | 237  | 1.7% | 14,125  |
| H27      | 10,510 | 83.6% | 140     | 1.1% | 1,172  | 9.3%  | 591   | 4.7%  | 156  | 1.2% | 12,569  |
| H22      | 7,570  | 73.2% | 110     | 1.1% | 836    | 8.1%  | 1,752 | 16.9% | 70   | 0.7% | 10,338  |

過去3回の調査を見ると、アブラゼミが飛び抜けて多く、70%を占めています。北陸地方ではアブラゼミが多いと言われていますが、金沢市でもその特徴がよくあらわれた結果となりました。

## 環境でセミの割合が違う？

人家の庭や街路樹などでは、アブラゼミの割合が多いです。これらの場所は、草木の少ない裸の地面が大部分を占め、多くのいきものにとって住みにくい環境です。一方、山林は、他と比較してミンミンゼミやニイニゼミの割合が高くなり、アブラゼミが少なくなりました。こういった環境ではいろいろな種類のセミがいることが分かります。市街地化が進んだ所ほどアブラゼミが多く、その他のセミが減っていくという様子が伺えます。

### 環境別構成比 令和3年(2021年)調査結果より



## 日本の中で、金沢市だけにいるセミがいる？

### スジアカクマゼミ(外来種)

◎本来は、中国などの東アジアに生息しており、もともと日本にはいなかったセミです。日本国内で金沢市の一部にしかいません(平成13年に発見)。鳴き声は「ジャー」という単調な音で、1匹が鳴き始めると周りのオスも合わせて鳴き、大合唱します。生息範囲は大きく拡大していませんが、今後、注視していく必要があります。

スジアカクマゼミの成虫

黒いセミとされていますが、最初は写真のように黄色い毛で覆われています。

スジアカクマゼミのぬけがら



他のセミと比べて大きく体長3.3cm以上で、お腹に丸い突起物が付いているのが特徴です。



# 触れる〈触覚〉

いろいろないきものを  
触ってみよう

## 植物

同じように見えても触ってみると、ツルツルしていたり、ザラザラしていたり、植物ごとに違いが分かります。実際に触ってみて、触り心地を確かめてみましょう。



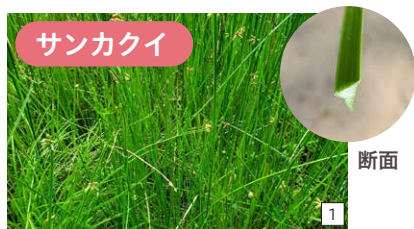
ユキツバキ



ヤブツバキ

◎日本海側の多雪地域に生育するユキツバキは、まっすぐ上に伸びずに、横に広がって成長します。また、枝は雪の重さに耐えられるようなやかです。

ヤブツバキの葉は厚く、しっかりしているのに対し、ユキツバキの葉は薄いため、日光にかざすと、葉脈が細かく透けて見えます。



サンカクイ

断面



フトイ

断面

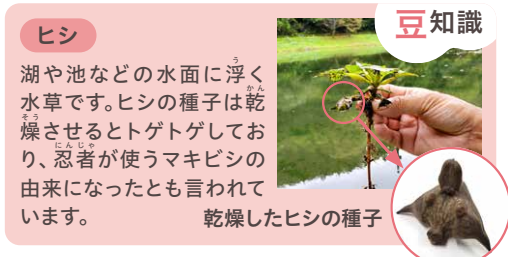
◎どちらも細長いカヤツリグサ科の植物ですが、名前のとおり、サンカクイの茎は断面が三角、フトイの茎は断面が円形をしています。実際に触ると、違いがよく分かります。日当たりのよい湿地や水辺に生えています。



ガマ

ヒメガマ

◎水辺に生育するガマ科の植物です。夏頃にソーセージのようなガマ穂をつけます。ヒメガマは、雄花と雌花の間にすき間があるのが特徴です。



ヒシ

豆知識

湖や池などの水面に浮く水草です。ヒシの種子は乾燥させるとトゲトゲしており、忍者が使うマキビシの由来になったとも言われています。

乾燥したヒシの種子





いきものを触る時は、優しく触ってください。

## 両生類

両生類とは、水中と陸上の両方で生活ができるという意味ではなく、水中・陸上両方の生息環境が必要ないきものです。近年、人々の暮らしの変化に伴い、多くの両生類が数を減らしています。

### モリアオガエル



体に模様がある  
個体もいます

◎山地や森林に生息し、繁殖期の4～7月にかけて湖沼、水田、湿地に集まります。指先には丸い吸盤があり、木の上での生活に適応しています。

### モリアオガエルの卵塊

水面上にせり出した木の枝に、泡で包まれた卵塊を産み付けます。



### トノサマガエル

国 準絶滅危惧

◎後脚の力が強く、動きが早く俊敏なカエルです。主な生息地は水田や池ですが、吸盤がないため、水路がコンクリートに替えられた場所では移動できず、生息範囲が狭まっています。



### アカハライモリ

国 準絶滅危惧



◎森林に囲まれた池や水田などに生息しています。お腹の赤黒の斑点模様は、警戒色(毒をもっていることを外敵に知らせる)と言われています。



# 触れる〈触覚〉

## 甲殻類

金沢の水辺には、様々な甲殻類が生活しています。全身は堅い殻に覆われたものが多いです。大きなハサミを持っている種類もいるので、十分注意しながら観察しましょう。



◎大きなハサミを持っています。夏に川を下り、秋から冬にかけて海で産卵します。川や河北潟周辺で観察することができます。



県 地域個体群  
◎赤いハサミを持っています。海に近い水辺の土手や雑木林などに生息しています。区画整理やコンクリート化によって生息数は減少しています。



県 地域個体群  
◎全体的に黒っぽいカニです。アカテガニ同様、生息数が減少しています。水辺に生息しています。

## スジエビ

◎テナガエビ科に分類されるエビの一種。よく釣りエサに利用されています。



## アメリカザリガニ

条件付特定外来生物

◎北アメリカ原産の外来種です。繁殖力が強く、ハサミで水草を切ったり、なんでも食べてしまうので在来種のトンボ類、メダカ類、ゲンゴロウ類、カエル類、サンショウウオ類などに大きな影響を与えています。





## 爬虫類

陸で生活できるよう、両生類から進化したものです。カメやトカゲ、ヘビなどがいます。変温動物なので、周りの気温によって体温が変化します。

### ニホンイシガメ

国 準絶滅危惧  
県 準絶滅危惧



◎他のカメと比べて甲羅の縁がギザギザしていて、黄土色に近い色をしています。生息地の破壊、人の採取、ミシシippアカミミガメとの競合等によって生息数は減少しています。

### クサガメ



◎目の後ろから首にかけて、黄色い線が入っていて、危険を感じる脚の付け根から独特の臭いを放ちます。近年、外来種の可能性が高いと言われています。

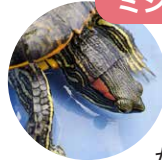
### トカゲ(ヒガシニホントカゲ)

◎全長16~25cm。表面はツルツルしています。体に沿って黒い模様があり、幼体の尾は美しい青色で、日当たりの良い場所を好みます。



### ミシシippアカミミガメ

条件付特定外来生物



◎北アメリカ原産のカメで、目の後ろの赤い模様が特徴です。昔はミドリガメという名前で販売されていましたが、成長するにつれて気性が荒くなるので、野外へ放す人が増えました。そういった個体が野生化し、どんどん生息範囲を広げています。個体数の増加に伴い、ニホンイシガメの生息場所を奪ったり、在来種を食べつくしてしまうなど、生態系への影響が危惧されています。



### ニホンカナヘビ

◎全長18~25cmのトカゲの仲間です。表面はザラザラしていて乾燥しています。全長の3分の2を尾が占めます。近づくくと枯れ葉の中に逃げていきます。





## 植物のにおいを楽しもう

種類によって、様々なにおいを出す植物。植物は自分で移動することができないため、様々なにおいを出してチョウやハチなどに花粉を、アリなどに種子を運んでもらっています。またヨモギなど外敵から身を守るためににおいを出しているものもあります。

### ゴマキ

◎葉を指で擦ると、香ばしいにおいがします。花期の5～6月頃には、白い花を多数つけます。



ごま油のようなにおい

ゴマキの葉

みかんのようなにおい



ゴマキの木

### クロモジ

◎葉や樹皮から柑橘系のにおいがします。またクロモジから作られる爪楊枝は高級品として知られており、茶席の和菓子と一緒に添えられています。



オオバクロモジの木

クロモジの枝を使った楊枝

### クズの花

◎つる性の植物で、土手などに生育しています。花期は8～9月頃で、薄紫色の花が咲きます。根に含まれるデンプンを利用したくず粉は、和菓子の材料として使用されています。葉の葛根湯の葛根はクズの根です。



クズの葉

クズの花

ブドウに似たような甘いにおい





## ササユリ

甘いかおり

◎葉がササに似ていることが名前の由来と言われています。日当たりの良い森林に生育しています。花を咲かせるまでに約7年かかります。近年イノシシによる食害や、人がとってしまうことなどで数が減少しています。



ササユリの花

## イチヨウ



イチヨウの木

牛乳が  
発酵したような  
におい



銀杏の実

◎秋になると強烈なおいにする実(銀杏)をつけます。あまり人に好まれるにおいではありませんが、2億年前から生き残ってきた最古の木ならではのにおいなのかもしれません。

## ヨモギ

さわやかな  
若草のような  
におい

◎葉をもむと香ります。葉を食べる虫に傷つけられると、虫のいやがるにおいで虫を遠ざけます。よく雑草といわれるものの一つで、道ばたによく群生しています。餅の中に入れたり、薬草として利用されています。



ヨモギの葉



# 食べる〈味覚〉

## 食べて実感する金沢の自然

私たちは、自然界から様々な恩恵を受けています。食料、水、繊維、燃料、薬品など、生活するために必要な資源を自然界からもらっているのです。そのうちの一つである食材の中から、昔から季節の到来を感じさせてくれるものを一部、ご紹介します。

春

セリ

◎春の七草の1つ。水温が低く、細い流れがある水辺に群生します。



1



セリを使用したお粥。独特の苦みがくせになります

夏

ドジョウ

◎金沢市の一部地域では、夏場、ドジョウの蒲焼を食べる風習があります。ドジョウはウナギに比べて脂が少なく、さっぱりしているものの、ウナギ1匹の栄養価に匹敵するといわれています。見た目は違いますが、ドジョウはコイ目に分類されるコイの仲間です。



ドジョウの蒲焼。  
甘辛い味付けですが、後味はさっぱり



1



秋 ゴリ

◎淡水産カジカ属・ヨシノボリ属を、北陸地方ではゴリと呼んでいます。ゴリの佃煮は、昔から保存食として親しまれており、金沢を代表する味のひとつです。



ゴリの唐揚げ



12

カジカ



12

ウキゴリの幼魚



ゴリの佃煮

秋 オニグルミ



5



クルミの実

◎タンパク質が豊富で、栄養価が高いクルミは、人間だけでなく動物たちにも人気の実です。縄文時代から食べられていました。



落下して乾燥したもの

**カラスのクルミ割り**  
硬い殻を割るために、クルミの実を道路まで運び、自動車に踏ませる姿が目撃されています。

秋 アケビ

◎ツル性の植物で、10月頃、熟した実をつけます。皮の中には、白い果肉が詰まっています(果肉の中には黒い小さな種子がたくさん)。味は柿に似ていて、自然の甘みがあります。



熟したアケビ



1

アケビの実(10月頃)



1

アケビのお花(5月頃)



# 野生鳥獣ちようじゆうとの関わり方じゆう

都市拡大のための開発や自然環境の変化によるエサ不足などの理由で、住宅街に出没する野生動物が増えています。また、高速で走ることができる道路の建設により、野生鳥獣と車の接触事故も発生しています。



## 住宅街に出没したカモシカ

◎視力が悪いので、刺激せずにそっと見守ってください。自分が暮らしている場所に帰る能力があるので、暗くなると山林へ戻ってきます。

## 群れから離れたニホンザル

◎住宅地に迷い込んだ際に、人間からエサを与えられ、そのまま住みついてしまった結果、農作物を食べたり、小さな子どもを襲ったりする事件が起っています。野生動物にエサを与えないことが大切です。



## 車にぶつかったタヌキ

◎夜行性のため、夜間の道路で、車との接触事故にあうことが多いです。夜間はスピードを出さないよう注意が必要です。



## バードストライク (野鳥の衝突死)

◎木や景色が窓ガラスに映るので、野鳥が窓にぶつかって気絶したり死んでしまう事故が多数起こっています。カーテンを閉める、窓にタカのシールを貼るなどして防ぎましょう。



窓ガラスにぶつかって命を落としたクロツグミ(メス)

## カラスについて



ハシブトガラス



ハシボソガラス

◎身近にいるのがハシブトガラスとハシボソガラスです。くちばしの太さと声で識別できます。

一般的に、カラスは3~7月頃までが繁殖期です。子育て中の親ガラスは、ヒナを守るため、巣に近づくと、威嚇する場合があります。巣を発見したら、刺激しないように身を守って下さい。

## 野鳥のヒナを拾わないで

◎巣立ちヒナはまだ飛べませんが、近くで親が見守り、飛べるまでエサを与えています。この時期に人に拾われると野生で生きていけなくなります。小さなヒナが落ちていても拾わずに見守って下さい。



まだ小さなメジロの巣立ちヒナ

## 餌付けについて

◎野生鳥獣にエサを与えることは、人にとっても野生鳥獣にとっても悪影響になります。エサを与えると自分でエサを取らずに、人に依存して食べものをうばうなど危険です。鳴き声やフン害などの生活被害にもつながってしまいます。

# 金沢市で 確認されている 特定外来生物

もともと日本に生育・生息していなかった種で、海外から持ち込まれるなどして野生化したものを「外来種」と言います。その中でも、特に生態系や農林水産業などに重大な被害を及ぼす恐れがあるものは、外来生物法で「特定外来生物」に指定されています。

「特定外来生物」は飼育・栽培・運搬・保管・輸入・人に渡す（譲渡）・野外に放つなどの行為が原則禁止されています。

## 植物

### オオキンケイギク(キク科、北米原産)

- 花期 5～7月
- 高さ 30～70cm
- 葉 先が少し膨らんだ細長い葉、両面に毛が生えている
- 特徴 コスモスに似たキレイな黄色い花を咲かせる。繁殖力が高く市内各地で雑草化している



### オオハンゴンソウ(キク科、北米原産)

- 花期 7～10月頃
- 高さ 1～3m
- 葉 裏側に短い毛が生えていて、触るとザラザラしている
- 特徴 少し垂れ下がった細長い黄色の花を咲かせる。主に河川敷に生育している

写真/環境省提供

### オオカワヂシャ(オオバコ科、ヨーロッパ～アジア北部原産)

花期 4～9月

高さ 30～100cm

特徴 白色や淡い紫色の花を咲かせる。  
河原や河川の岸辺などの日当たりの良い所に  
生育する



### アレチウリ(ウリ科、北米原産)



花期 8～10月

特徴 ツル性の植物で、  
10m以上のツルを伸ばし  
群生することが多い。  
白いトゲに覆われた  
実がなり、河川岸に生育する

写真/環境省提供

これらの種は、繁殖力が強い<sup>はんしよくりよく</sup>ため、もともといた植物が  
減少・消失<sup>げんしょう</sup>していくという問題が全国的に起こっています。

#### 拡散防止のために<sup>かくさんぼうし</sup>

- 1 家に持ち帰ったり、種子をまいて育てたりしない。
- 2 所有地内で発見したら、根ごと掘り取り、乾燥させてからビニール袋で密閉し、ごみに出す。
- 3 これらの植物が生えている周辺の土は種子が含まれているため、他の場所に移動させない。



# 金沢市で確認されている 特定外来生物

## 両生類

### ウシガエル(アメリカ東部、中部、カナダ南東部原産)



写真/環境省提供

体長 12~18cm

主な生息場所 水草が生い茂っている  
河川、湖沼、湿地

◎夜行性で、「ウオー、ウオー」と牛に似た太い鳴き声を出します。肉食性で、口に入るものなら何でも食べてしまいます。

## 哺乳類

### アライグマ(北アメリカ原産)

体長 40~60cm

尾長 20~40cm

#### アライグマの特徴

- ①目のまわりの黒い部分が大きい
- ②尾が縞模様
- ③足跡が人の手のような形



アライグマの足跡



写真/環境省提供

◎見た目はタヌキに似ていますが、尾には黒い縞模様があります。1回に3~6頭の子を産むなど繁殖力が高く、石川県では、南加賀を中心に出没。金沢市内でも目撃情報が寄せられています。雑食ですが、特にスイカやトウモロコシなどの食害による農業被害が発生しています。



## 魚類(淡水魚)

通称 ブラックバス

### オオクチバス(北アメリカ原産)



写真/石川県内水面水産センター提供

成魚の体長 30~50cm

主な生息場所 比較的水温が高い湖沼や  
流れの緩い河川など

◎肉食性で自分の体の半分程度の大きさの魚を飲み込める大きな口をもっているので、カエルや小型の鳥類まで丸飲みします。

### コクチバス(北アメリカ原産)



写真/石川県内水面水産センター提供

成魚の体長 30~50cm

主な生息場所 流れが速く、  
水温が低い溪流などの  
水がきれいな場所

◎食性はオオクチバスと同様ですが、より魚を好んで食べる傾向があります。オオクチバスより体高が高いです。

### ブルーギル(北アメリカ原産)



成魚の体長 20cm前後

写真/環境省提供

主な生息場所 湖沼や流れの緩やかな河川、  
障害物のある場所で  
群れを作る

◎小動物や水草などを食べ、汚れた水の中でも生息できるなど、適応能力が高い魚です。

これらの種は、水辺の自然環境に大きな影響を与え、その地域の生態系バランスを壊してしまいます。

#### 例

- 在来生物を食べてしまう。
- 在来生物の生息場所を奪ってしまう。
- 在来生物のえさを食べつくしてしまう。

# かん さよう 環境学習 の 実施 の 実施

金沢市では、次世代を担う子どもたちに自然やいきものと触れ合う機会を作り、自然環境保全の心を養ってもらうために環境教育を実施しています。

## ヤマメの飼育・放流事業

平成29年度から実施

(平成元年～平成26年まではサケの飼育・放流事業を実施)



ヤマメの生態や飼育方法について学ぶ学習会

◎子どもたちが、自分の手で「ヤマメ」の卵を稚魚になるまで飼育し、成長した稚魚を学校付近の河川に放流する事業です。「ヤマメ」の卵(発眼卵)は、石川県内水面水産センターから提供してもらい、金沢漁業協同組合の協力を得ながら実施しています。この事業を通して、子どもたちに河川をきれいにする大切さと、命の尊さを学んでもらえるよう、引き続き実施していきたいと思ひます。



卵を水槽に移す子どもたち



稚魚の放流

## ハッタミミズ学習会

### 日本一長いミミズを知っていますか？

◎その名を「ハッタミミズ」と言い、金沢市八田町で最初に発見されたことが名前の由来です。近年、生息範囲が縮小し、石川県では絶滅危惧I類に指定されています。

ハッタミミズ



伸びた体長は60cmほどになります

◎八田町周辺の小学校を対象に、地元で生息する「ハッタミミズ」を通して、絶滅危惧種や自然環境保全の大切さについて理解を深めてもらう学習会を実施しています。



学習会のようす

**写真提供**(写真には各提供者の番号が付いています)

- ① 金沢市生物多様性市民ウォッチャーの皆様
- ② 環境省
- ③ 石川県ふれあい昆虫館
- ④ 石川県内水面水産センター
- ⑤ キゴ山ふれあい研修センター
- ⑥ 金沢ホテルの会
- ⑦ 嶋田 敬介 (石川県立自然史資料館)
- ⑧ 白川 郁栄
- ⑨ 高木 政喜
- ⑩ 高橋 久
- ⑪ 富沢 章
- ⑫ 山本 邦彦
- ⑬ 金沢市環境政策課

**監修協力者** (50音順)敬称略

- 白川 郁栄 (日本野鳥の会石川副代表)  
高橋 久 (河北潟湖沼研究所理事長)  
富沢 章 (石川むしの会会長)  
中野 真理子 (石川県立自然史資料館副館長)

### 「市民ウォッチャー募集中」

見つけたいきものを写真とともに報告してもらう制度です。いただいた情報は、いきものの保全や特定外来生物の監視等につなげています。

## 金沢市いきものガイドブック

---

令和5年3月発行

金沢市環境政策課

〒920-8577 石川県金沢市柿木畠1番1号

TEL:076-220-2507

FAX:076-260-7193

Mail:kansei@city.kanazawa.lg.jp

---



# 生物多様性

～豊かな個性と命のつながり～

地球上のいきものは、様々な環境に適応して進化し、約3,000万種ものいきものが生まれてきました。全てのいきものには、それぞれに個性があり、全てつながり合いながら壮大な生命の環を作り出しています。



## 生態系の多様性

～様々なタイプの自然がある～



## 種の多様性

～多くのいきものがある～



## 遺伝子の多様性

～個性の変異が豊富である～

